

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【公開番号】特開 2006-96707 (P2006-96707A)

【公開日】平成 18 年 4 月 13 日 (2006.4.13)

【年通号数】公開・登録公報 2006-015

【出願番号】特願 2004-285262 (P2004-285262)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/30 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/00 R

A 6 1 K 7/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 4 日 (2007.9.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

すなわち本発明は、(1) グリセリンに、薄片状微細結晶からなる管状の塩基性炭酸マグネシウムをゲル化剤として配合することを特徴とするグリセリンゲル状組成物や、(2) 管状の塩基性炭酸マグネシウムが、内径 0.5 ~ 5 μm、外径 0.5 ~ 10 μm、長径 10 ~ 50 μmであることを特徴とする上記(1)記載のグリセリンゲル状組成物や、(3) 管状の塩基性炭酸マグネシウムを 1 ~ 30 質量%配合することを特徴とする上記(1)又は(2)記載のグリセリンゲル状組成物に関する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

(比較例 7 ~ 10)

比較例 7 ~ 10 においては、ゲル化剤として親水性無水ケイ酸 (A E R O S I L 2 0 0 日本アエロジル社製) を 1.0 %、5.0 %、20.0 %、30.0 % を用いた以外は、実施例 4 ~ 7 と同様の方法によりゲル状洗顔料を得た。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

(比較例 11 ~ 14)

比較例 11 ~ 14 においては、ゲル化剤として、球状炭酸マグネシウム (神島化学工業株式会社製) を 1.0 %、5.0 %、20.0 %、30.0 % を用いた以外は、実施例 4 ~ 7 と同様の方法によりゲル状洗顔料を得た。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

表2の結果から明らかなように、管状塩基性炭酸マグネシウムを配合したグリセリンゲル状組成物を用いて調製した実施例4～7のゲル状洗顔料は、比較例7～14のゲル状洗顔料と比較して「高温安定性」、「後肌のきしみ感のなさ」、「泡立ちやすさ」の点で優れており、即ち、サンプル種は手で伸ばしやすく、水又は温水との馴染みがよいことがわかった。これによって、本発明のゲル状製品が、きしみ感がなく、伸びの良さに優れ、高温においても安定であることがわかった。